

二〇二二年度 大妻中野中学校 第二回アドバンスト入試

二月一日午後 問題用紙

国語

座	席	番	号
			番

受	験	番	号
			番
			氏 名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて全部で十ページあります。
 (二) 試験開始後、解答用紙にペー ジ数を確認してください。
 (三) 問題用紙と解答用紙はそれぞれに座席番号と受験番号と氏名を忘れずに記入してください。
 (四) 試験時間は五十分です。
 (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
 (六) この試験は百点満点です。

このページは白紙です。

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(ただし、句読点や記号も一字に数えます。)

屈折から熱量を知る

初めに、自己紹介を兼ねて私の仕事についてお話しさせていただきます。一九九四年に報道機関の共同通信という通信社に入社し、二十年以上にわたって記者をしています。通信社というのは、新聞社やテレビ局などの各報道機関に記事を配信する会社です。共同通信の配信したニュースは、加盟する新聞社の紙面やインターネットなどで読むことができますが、会社として独自の新聞は発行していません。このため、通信社は俗に「ニュースのA」と呼ばれることもあります。

働いているのは、世の中で起きるさまざまな*1事象を扱う「社会部」という部署です。事件や事故の取材のほか、主に教育分野の取材に長く携わってきました。自分で取材して記事を書くのと同時に、若手記者の書いた原稿を読みやすいものに仕上げていく「デスク」と呼ばれる編集者のような役割も担っています。

仕事柄、さまざまな分野の方にお会いする機会がありますが、最近ある企業の広報担当の方から採用面接の話を聞いていて、「その感覚、とてもよく分かります!」と意気投合したことがありました。風通しのよい社風で知られるその企業では、リクルーター(採用担当者)が就職を希望する学生に会って、「学生時代に何に打ち込みましたか」とたつた一つだけ質問をするのだそうです。一つと言っても、学生が答えた内容を踏まえて、リクルーターは再度質問を投げかけます。回答から*2派生してまた次の質問、さらに次の質問と何度もやり取りを繰り返しながら、目の前にいる学生がどういう人物なのか、内面に分け入っていきます。

学生たちの最初の自己アピールは「サークルの代表や幹事を務めて、集団をまとめ上げた」とか「留学をして、語学だけでなく異文化について学んだ」といった、どこの企業の面接でもよく聞かれる話が多いそうです。リクルーターの腕の見せどころは、そこから先です。「代表になろうと思ったのはなぜですか」「まとめ上げたとは具体的にどういうことですか」「目標を達成するためにどのように情報を集め、何をしたのですか」「どうやって周囲の仲間を巻き込みましたか」「もう一度同じ状況に直面したらどうしますか」……。相手の行動を*3規定していると思われる価値観や判断基準を、納得できるまで丁寧に掘り下げていきます。

決まりきったやり取りではなく、① 真つ白なキャンパスに絵を描くような作業なので、話はどちらの方向へ展開するのか予想が付きません。大学のサークルについて質問していたはずなのに、気がつけば幼少期の出来事にまで話題が遡ることもあります。人間性を知るのが目的ですから、時間は惜しみなくかけ、面接の回数が十回近くにもぼるケースも少なくありません。業界では行動面接と呼ばれる面接手法なのだそうです。学生にとっては回答の自由度が高い半面、事前に答えを用意しておいてもあまり役に立たないので、苦手にしている人も多いと聞きました。

私が共感したのは、担当者の次のような言葉でした。「私たちは学生をその人のプラス面だけで評価はしません。こちらが何度も質問を繰り返すので、途中で答えられなくなつて泣きだしてしまう学生もいますが、その学生がどれだけ屈折した部分を持っているのかも見てみたい。屈折は人間の熱量にも変わり得る*4潜在能力なので、必ずしもマイナス要素とは考えていないのです。表面だけ着飾った学生ではなく、本当に魅力的な学生を見つめるのに、この面接方法は有効だと考えています」。

これは②記者の仕事とよく似ているな、と感じました。例えば誰かにインタビュする時、相手が発する言葉だけをひたすら追いかけても、その人の本質はなかなか見えてきません。すでに聞いた内容をもう一度聞き直したり、返ってきた回答に「私にはどうしても理解できないのですが」と

反問してみたりと、さまざまなアプローチを試みます。記者のフィルターを通すことで目の前にいる人物を再構築していく作業とも言えましょうか。しつこいぐらいに問い返し続けることで取材は深まっていますが、それでもなかなか本質にはたどり着けないというのが正直なところ
です。

③「問う」という行為は、簡単なように見えてとても奥の深いものです。用意した質問に順番に答えてもらうだけなら単純ですが、こちらが問えば相手から逆に質問を受けることもあります。返ってきた言葉の真意を探りつつ、やり取りは続いていきます。人間というのは複雑で、矛盾に満ちた生き物です。その本質に易々と近づくことはできません。話を聞く、疑問に思う、尋ねる、もっと知りたいと思う、また尋ねる。頭の中は常にフル回転しています。その積み重ねが、記者で言えば原稿の厚みとなって現れてきます。

今度注意をして新聞のインタビュ記事を読んでみてください。「このエピソードは、取材されても軽々しく答える内容ではないな」とか「ここは、記者が何度も聞き返したから、話が深まったのではないか」と感じる部分が、きつとあるはず。そうしたエピソードがどの程度盛り込まれているか、すなわちどれだけ質の高い問い返しがあったかによって、記事の価値は大きく変わってきます。

相手の言葉に対して、問い返すだけの知識や豊かさが自分に備わっているのか、取材ではいつも試されているようなものです。自分が尋ねているように見えても、逆に自分自身が照らし出されてしまうのが「問い」というものの本質であり、怖さでもあります。

B

を決めるのは人間

若いみなさんも一度は耳にしたことがあるかもしれませんが、日本では二〇三五年ごろまでに半分の仕事は、人工知能（AI）やロボットに取って代わられると予測されています。子どもたちの三人に二人は、今は存在しない職業に就くとも言われています。AIがさまざまな分野に進出し、産業構造の枠組みも変わってくると考えられているためです。人口減少時代を迎えた日本にとって、不足した労働力をAIが補ってくれるのはありがたいことですが、一方ではこれまで人間にしかできないと思われていた仕事があっさりと奪われてしまうのも、また避けようのない未来予想図のようです。

実は私がやっている記者の仕事も、安泰ではないと言われています。米国の代表的通信社であるAP通信では、すでに企業の決算原稿の作成をほぼAIに任せています。労働力を補うという側面もありますが、AIの書いた原稿はほとんど間違いを犯さないという特長が導入を後押ししています。

記者の仕事をしているとよく分かりますが、人間が一つ一つのデータや数字を調べてパソコンに打ち込んだ場合、どれほど注意深く作業しても間違いは必ず起きてしまいます。反対に、膨大なデータの中から取り出すパターンが決まっている情報を集めて記事を自動生成するのは、AIにとってはお手のもの。記事にどのようなデータが必要になるのか、最初は人間がプログラムしなければなりません。枠組みさえ作ってしまえば、人為的なミスをなくすることができるのです。

AP通信では④「AI記者」を導入して以降、出稿記事の本数が大幅に増え、反対に執筆時間はずいぶん短縮されました。作業の効率化の観点から見れば、願ったり叶ったりで、お天気原稿やスポーツデータなど他の分野にも近いうちに活用範囲が広がっていくと考えられています。

仕事を奪われる記者の側には、不満が渦巻いているのではないかと*5推察しましたが、そうでもないようです。注目度の低い記事はAIに任せて、関心の高い企業に関する記事は従来通り記者が執筆するというすみ分けができるようになったため、AI記者の評判は上々だということです。

仕事の自由度が増し、単調な記事に割^きいていた時間は、連載企画や特ダネ取材などの、より重要な仕事に充てられるようになりました。かつては炊飯器や洗濯機の発明が炊事や洗濯の労力を軽減し、人間は空いた時間を有効活用できるようになったのと同じことが、今度は頭脳労働の現場でも始まっているのです。

⑤ AIの得手不得手を知ることは、⑥ 人間に固有の力とは何かをあらためて問い直すことにもつながります。先ほどの決算原稿のように、限られた枠組みの中でより早く正確に答えを出すような戦いをAIに挑^いんでも、人間には勝ち目がありません。特定の状況からパターンを読み解き、法則性を見つけるのは人間の専売特許でしたが、そうした分野にもAIは触手を伸ばしつつあります。しかし、枠組みそのものを決めたり、意味を理解したり、答えが一つに定まらない問いを考えるといった営みは苦手としている、というのが現時点でのAIの姿です。記者が対抗する手がかりも、どうやらその辺りにありそうです。

マニュアルはどこにもない

このままAIが進化を続けられれば、いずれ記者の仕事はすべて奪われてしまうのでしょうか。二〇三〇年にはニュース記事の九割を人工知能が書いていくという恐ろしい予測もありますが、人間相手の取材は人間にしかできないのはもちろん、取材で得られた材料の価値を判断し、意味を理解して原稿にする作業もまた、人間にしかできません。

インターネット上には多くのニュースがあふれていますよね。でも、ヘッドラインニュースを見るだけでは優先順位は分らないでしょう？「人によって大事なニュースは違うのだから、優先順位なんかないでもいいじゃないか」という意見もあるかもしれません。これだけ価値が多様化した時代なので、ある人にとっては重要なニュースも、ある人にはまったく関心のないものになってしまうのも分かります。しかし、報道の現場で働く私たちは、限られた人にしか影響のないニュースよりも、より多くの人々の生活を C ニュースほど価値が高いと判断します。

国内で大きな地震が起きれば、大ニュースであることは誰でも分かりますよね。政治家が汚職で逮捕されても民主主義に関わる重大な問題ですから、多くの人の関心事になります。判断基準がそれだけ明快であればよいのですが、⑦ ニュースバリューの見極めにはさまざまな要素が絡み、一筋縄ではいかないことも多いのです。似たようなニュースでも、三か月前と三か月後では意味が変わるかもしれませんし、場所や状況によつては価値が変動することもよくあります。ある程度常識的な「*6 相場感^{そうば}」はありますが、方程式に当てはめれば答えが出るほど単純なものではありません。でも、価値判断という要素があるからこそ、ニュースに関わる仕事は魅力的で、人間が判断材料を集める取材を行う意味もあるのです。

〔注〕

- *1 事象…… 現実の出来事。現象。
- *2 派生…… もとのものから分かれて生じること。
- *3 規定…… 物事を一定の形に定めること。また、その定めた内容。きまり。
- *4 潜在能力…… いつもは表面に表れず、内に潜んでいる能力のこと。

（名古屋隆彦『質問する、問い返す―主体的に学ぶということ』岩波ジュニア新書より）
*なお、作問の都合上、本文には一部省略されている部分があります。

- *5 推察…… 他人の事情や心中を思いやること。
*6 相場…… ある物事についての世間一般の考え方や評価。

問一 空欄 A に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. おろしどんや 卸問屋 イ. 無人販売 ウ. 百貨店 エ. 小売り店

問二 — 部① 「真っ白なキャンバスに絵を描くような作業」とありますが、これはどのような意味で使われていますか。最も適切なものを、次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. これから規則にしばられず自由に勝手気ままに発言するという意味
イ. これから絵を描くためのアイデアを出そうと決意するという意味
ウ. これから先の事は何もわからず不安な選択をするという意味
エ. これから行うことは何にも縛られない新しいことだという意味

問三 — 部② 「記者の仕事とよく似ているな、と感じました」とありますが、筆者はどのような点が似ていると感じたのですか。本文中の言葉を使って、三十五字以内で答えなさい。

問四 — 部③ 「『問う』という行為は、簡単なように見えてとても奥の深いものです」を説明したものとして最も適切なものを、次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 「問う」ことは、学生のプラスの面を知るばかりでなく、学生を追いつけてしまうので注意が必要な行為だということ。
イ. 「問う」ことは、相手の本質を明らかにするだけでなく、問う側の知識や力量が照らし出される行為だということ。
ウ. 「問う」ことは、こちらからだけでなく相手側からもされてしまうため、自主性を失いがちな行為だということ。
エ. 「問う」ことは、複雑で矛盾に満ちた人間のマイナス部分を最も明らかにしていくことができる行為だということ。

問五 小見出しにある、空欄 **B** に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア．効率化 イ．注目度 ウ．枠組み エ．データ

問六 — 部④（AP通信が）『AI記者』を導入した主な理由は何だと考えられますか。本文中の言葉を使って、「から」に続くように二十五字以内で答えなさい。

問七 — 部⑤「AIの得手不得手」とありますが、次のア～エについて、AIが得意なものには○を、不得手なものには×を解答欄に書きなさい。

- ア．過去数年分の売り上げデータから、今後の商品の生産数を決めること。
- イ．図書館の蔵書の中から必要な資料が載った本を見つけ出すこと。
- ウ．相談者の悩みに耳を傾け、相手の気持ちに寄り添った言葉をかけること。
- エ．裁判所で被告人（犯罪を犯したとされる人）の弁護をすること。

問八 — 部⑥「人間に固有の力」について、筆者はどのように考えていますか。本文中から二つ抜き出して「こと」に続くように答えなさい。なお、一つは二十五字以内、もう一つは四十字以内です。

問九 空欄 **C** に当てはまる言葉は、「思うままに動かす」という意味の言葉です。最も適切なものを、次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア．上下する イ．左右する ウ．前後する エ．浮沈する

問十 — 部⑦「ニュースバリューの見極めにはさまざまな要素が絡み、一筋縄ではいかないことも多いのです」とありますが、その理由を「から」に続くように、本文中より二十字以内で抜き出して答えなさい。

二 次の各問いに答えなさい。

A 漢字に関する問題

問一 部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 大きなリョカク機が大空を飛んでいる。
- ② 貨物船で物資をユソウする。
- ③ 本のカンマツに後書きを書く。
- ④ 新しい職場にもすぐにジユンノウした。
- ⑤ 突然雨が降ってきたので、駅で傘をカリた。

問二 次の漢字に共通した部首を加えると違う漢字になります。その部首をそのまま書きなさい。

〈例〉 共 二 直 非

答え ↓ イ (にんべん)

① 因 能 田 音

② 夜 主 原 舌

③ 公 毎 黄 朱

問三 例のように、熟語の中には表記は同じでも、意味によって読み方が異なるものがあります。

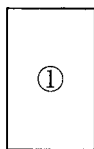
A・Bの意味を踏まえて、 に当てはまる二字熟語を答えなさい。

例

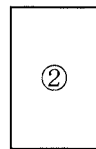
生地

A 布・織物などの地質。また、布・織物。 ↓ 「きじ」

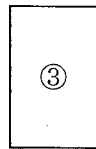
B 生まれた土地。 ↓ 「せいち」



- A 技能・学力などが他より優れていること。優位。
- B 物事に巧みなこと。手際のよいこと。



- A 多くの人。多人数。
- B 流動していくものごとのおおよその形勢。世のなりゆき。



- A 地位・階級・年齢などが自分よりも下の人。
- B 目の前。すぐ近く。現在。

B ことわざ・慣用句に関する問題

問四 次のことわざ・慣用句の組み合わせで二つの意味が似ているものには○、異なるものには×を解答欄に答えなさい。

- ① 飼い犬に手を噛まれる・庇を貸して母屋を取られる

- ② ローマは一日にして成らず・塵も積もれば山となる

- ③ 馬の耳に念仏・猫に小判

- ④ 河童の川流れ・蛇の道は蛇

- ⑤ 踏んだり蹴ったり・聞いてびつくり見てがつくり

- ⑥ 論より証拠・百聞は一見に如かず

C 文法・言葉づかいに関する問題

問五

次の会話の――部の中には、敬語や文法的に誤った表現が三か所あります。誤った表現の番号を答えなさい。また、誤った表現を正しく直したものを解答欄に書きなさい。

(中学生の真琴さんは姉の由香子さんと食事をしにレストランに来ています。注文の品が届きます。)

真琴…「お姉さん、お食事が冷めないうちにどうぞ① いただいてください。私のお食事は注文のものと違ったので、作り直してもらいます。」

由香子…「あら私は、真琴さんと② 一緒に食べたいわ。もう少し待ちます。店員さん、お願いします。」

店員…「申し訳ありませんでした。ご注文の品を間違えてお届けしました。お詫③ びにこちらをどうぞ。当店自慢の特製パフェでございます。」

真琴…「あら、うれしい。おいしそうなパフェだわ。別のお料理が来たときは悲しかったけれど、今はとっても幸せ。」

店員…「お嬢様にそう④ おっしゃられてくださり、感謝いたします。」

真琴…「お食事もたつぷりあって大満足。でも、このパフェが食べきれないわ、お姉さん助けて。」

由香子…「私もおなかいっぱい。でもあと少しなら⑤ 食べられるかしら。」

真琴…「このお店は私たちのような美食家にはぴったりのお店だとお母様が⑥ 申していたのよ。」

由香子…「そのとおりね。今度は三人で⑦ 参りましょう。」

問題は以上です

